

2018年度
インターネット・ゲートキーパー活動
モデルの構築事業 実施報告

NPO法人OVA

インターネット・ゲートキーパー活動の概要

Step1:
自殺ハイリスク者をスクリーニング

①検索連動広告



Step2:
特設サイトに誘導
援助要請行動を促す



Step3: 支援

①メール

②チャット (LINE含)

③電話
(skype・LINE通話含)

④対面

※メールで受け付け、チャット・電話・対面等で支援を行う。

期待される効果：

- ・自殺ハイリスク者をスクリーニングした上での介入

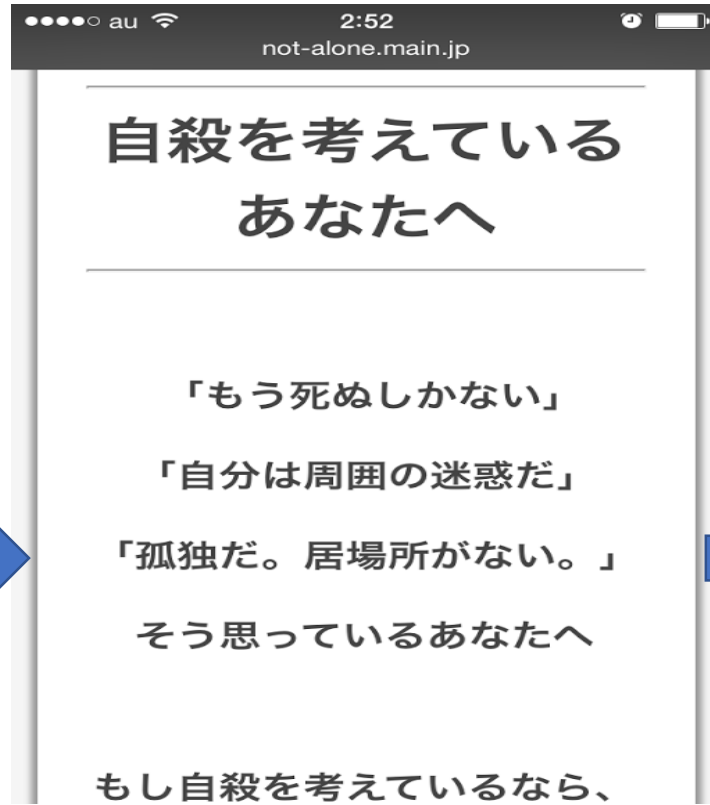
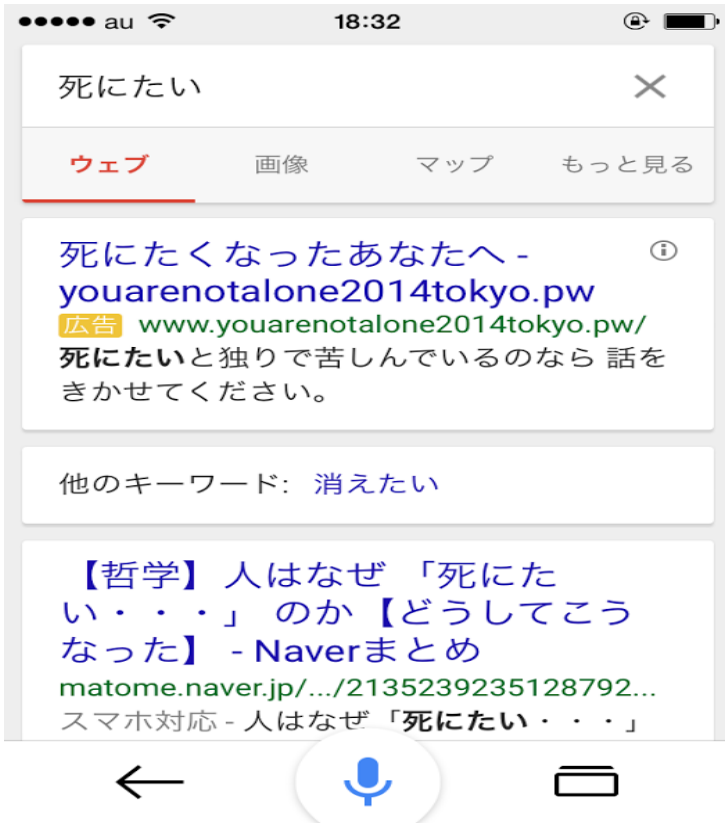
期待される効果：

- ・自殺手段の認知的制限
- ・パパゲーノ効果

期待される効果：

- ・自殺の中断を含む
相談者のポジティブな感情の変化や今までつながっていないリアルな援助機関への援助要請

1. インターネット・ゲートキーパー活動の仕組み

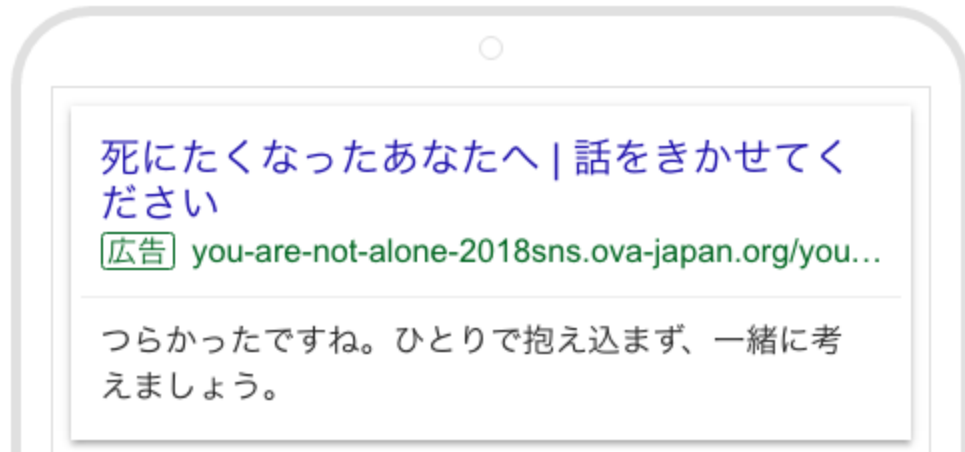


検索エンジン（Google）をハイリスク者のスクリーニングとみなし、自殺ハイリスク者を特定してサイトに誘導。相談者はワンクリックでメールが送ることができる。

検索連動広告の仕組みと表示する広告例

最も表示されている広告

広告グループ: 希死念慮/自殺宣言



表示回数	クリック数 ▼	クリック率 ▼
18,161	1,333	7.34%



- 死ぬ方法を考えるあなたへ
話をきかせてください
you-are-not-alone-2018sns.ova-japan.org/you...
ひとりで抱え込まず、一緒に考えましょう。
お話、きかせてください。
- 死にたくなつたあなたへ
話をきかせてください
you-are-not-alone-2018sns.ova-japan.org/you...
ひとりで抱え込まず、一緒に考えましょう。
お話、きかせてください。
- DVが辛いあなたへ
死にたいくらい辛いならご相談を
you-are-not-alone-2018sns.ova-japan.org/you...
あなたは悪くありません。今後のことを一緒に考えましょう。

自殺関連用語を約330登録。キーワードによって広告を分けて表示。

「自殺方法」→「死ぬ方法を考えるあなたへ」

「学校 死にたい」→「学校生活が苦しい死にたいあなたへ」

実施結果概要

期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日

※広告は平成31年2月18日まで。平成3月31日まで相談の対応は行っている。

広告の運用結果

	Google 広告
期間	平成30年4月1日～平成31年2月18日
表示回数（インプレッション）	149,914回
クリック	5,142回
クリック率	3.42%
広告費用	436,486円

相談者数：77名

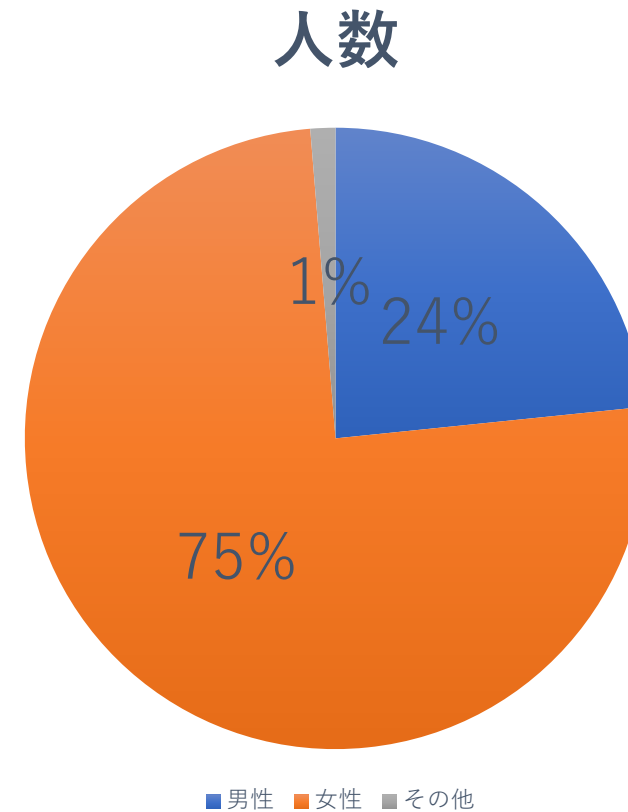
※ここでの「相談者」の定義は「継続相談者」の実数であって、
例えば「初回のメール以降返信がない場合」「アンケート回答がない」場合などはやりとりがあっても「相談者」に含んでいない。
対象としていない「精神科・心療内科に通っている人」の場合は結果的に継続的なやりとりがあっても「相談者」に含んでいない。

上記の定義にあてはまらない新規相談全体は「163名」であった。

変化率：44.1% （相談者のポジティブな変化率）

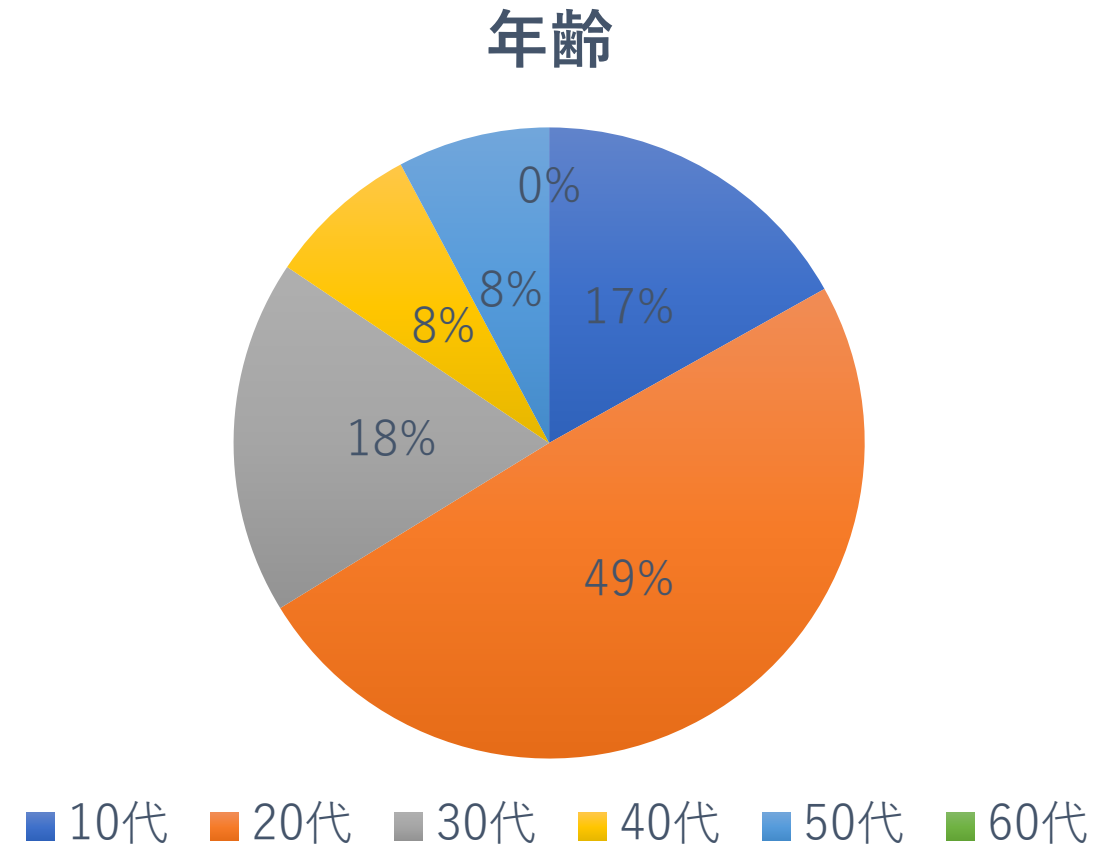
相談者の性別

性別	人数	割合
男性	18名	23.3%
女性	58名	75.3%
その他	1名	1.2%
		100.0%



相談者の年齢

年代	人数	割合
10代	13人	16.8%
20代	38人	49.3%
30代	14人	18.1%
40代	6人	7.7%
50代	6人	7.7%
60代以上	0人	0%
		100.0%

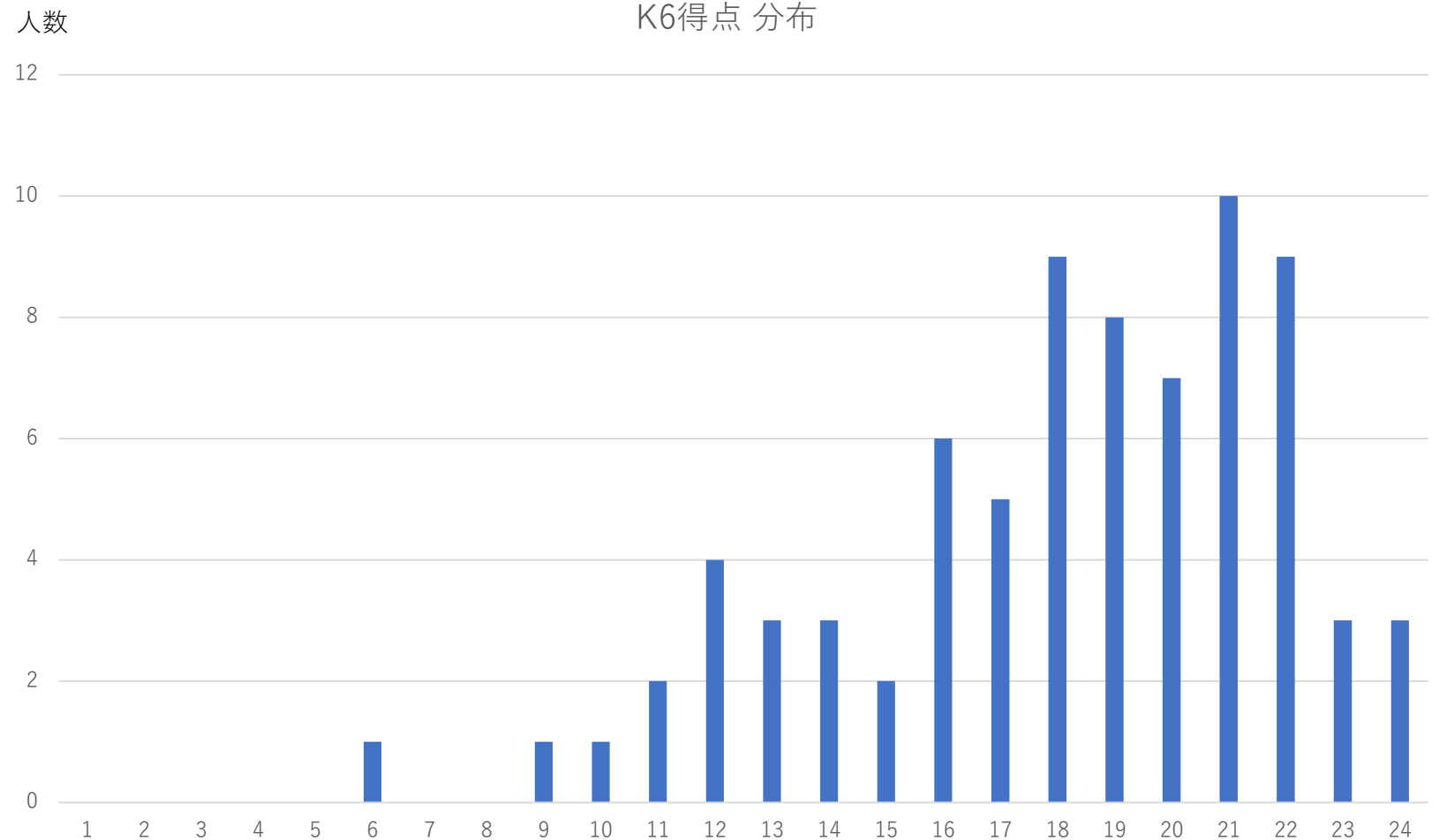


K6

平均点：18.0点

※12歳以上の国民を対象とした調査では「0～4点」が67.6%、20歳以上で10点以上の割合は10.5%（厚生労働省 平成28年 国民生活基礎調査：<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa16/index.html>）

※K6とは：米国のKesslerらによって、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発された。6つの項目からなり、こころの健康状態をあらわす指標として広く利用されている。



自殺念慮尺度

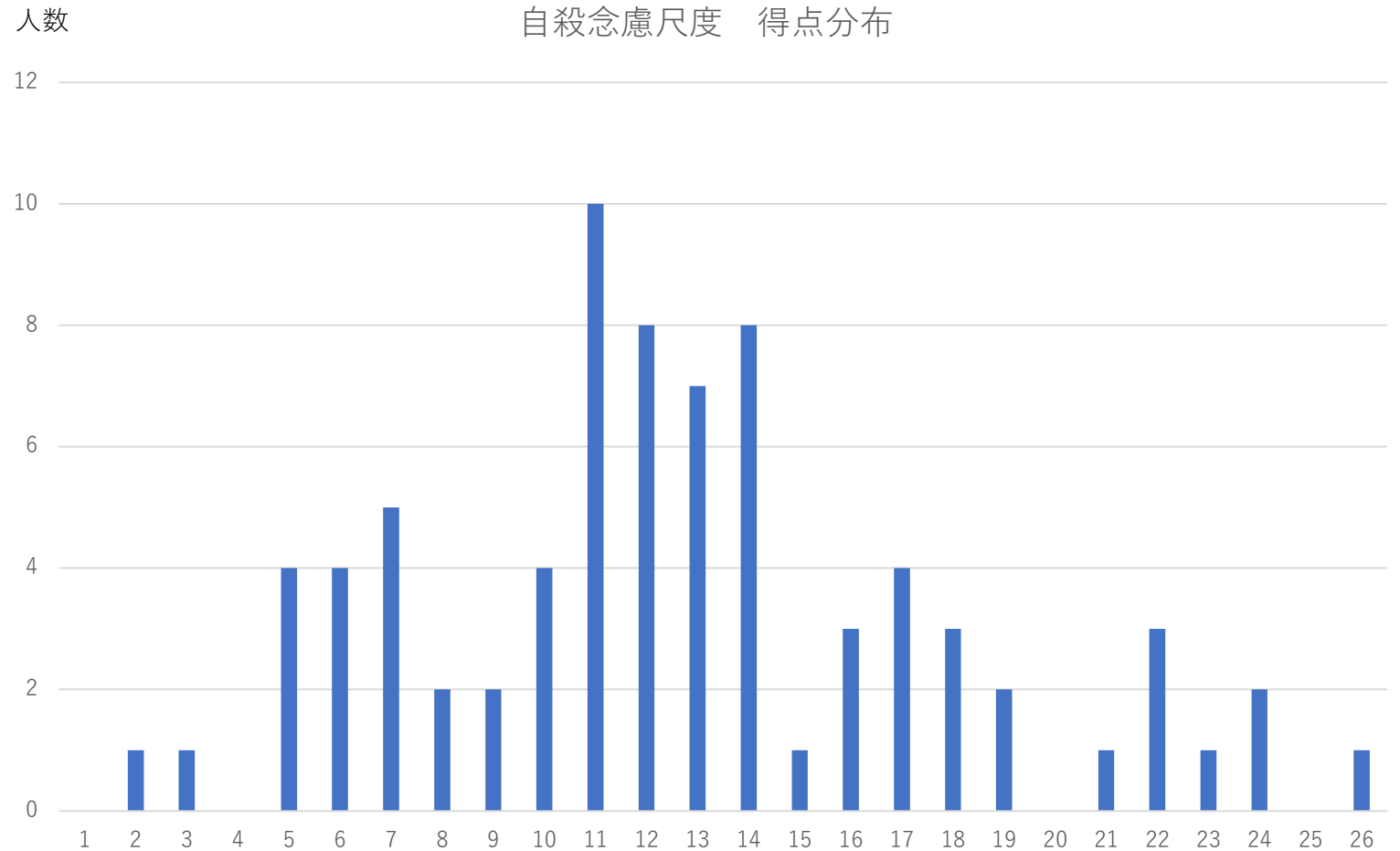
平均点：12.6点

※一般の20～30代の平均点：
2.69点（末木, 2017）

https://researchmap.jp/?action=cv_download_main&upload_id=152375

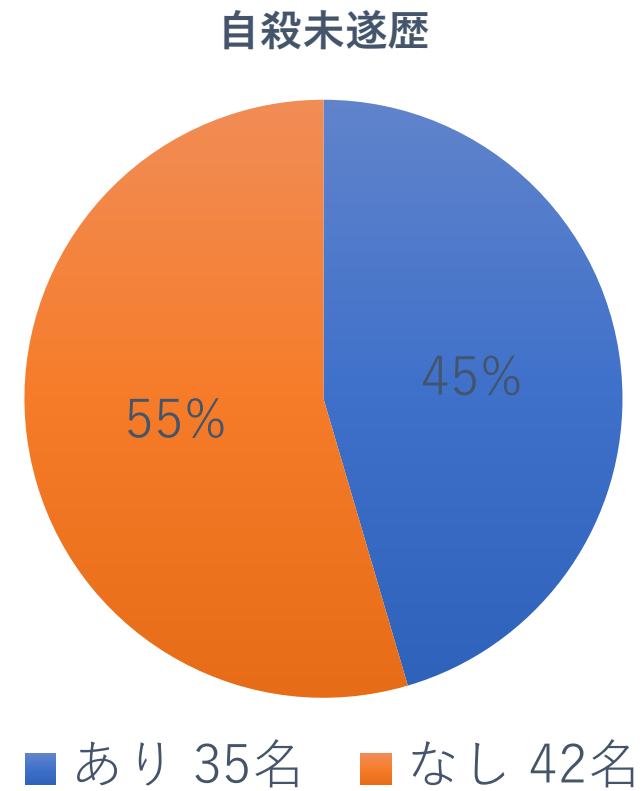
※自殺念慮尺度とは：自殺の意思や計画性について尋ねる尺度。

大塚ら（1998）によって翻訳され、自己報告式尺度として13項目のものが作成されている。



自殺未遂歴

あり	35名	45.45%
なし	42名	54.55%



変化率(行動的・心理的变化)

相談者のうち「感情の変化」「つなぎ（援助要請行動）」が認められたものを測定した。

感情の変化とは「ポジティブな感情の変化が認められた者（自殺の中断も含む）」と定義し、33件あった。（42.8%）

つなぎ（援助要請行動）は「今までにつながっていなかった新たな社会資源(インフォーマル含む 例：母に初めていじめについて相談できた)につながった者」と定義し、14件あった。（18.1%）

つながった先は学生相談室、心療内科・精神科等の医療機関、女性相談、生活困窮者の窓口等であった。

上記感情の変化、援助要請行動、いずれかが認められたのは相談者77名中（実人数で）34名であり、相談者のうち44.1%であった。

その他ご報告（論文・学会発表）

2018年度内に発表した論文・MISCは8本、学術団体等での口演は4回であった。

論文・MISC

- 1) 伊藤次郎.(2018).なぜ若者はSNSで「死にたい」とつぶやくのか:インターネット相談の現状
(特集自殺総合対策を効果的に進めるために:自殺総合対策のポイントと実効性ある展開を目指して).
地域保健, 49(3), 48-51.
- 2) 伊藤次郎.(2018).つくる・つなぐ・ひらく(第4回)インターネット相談活動の実践:
ICTを用いたアウトリーチ活動とソーシャルアクション.精神保健福祉, 49(4), 342-345.
- 3) 末木新・伊藤次郎(2018).インターネットを用いた自殺幫助と自殺予防活動
(特集:自殺の現状をどう理解するのか)日本精神科病院協会雑誌, 37, 573-577.
- 4) 末木新・伊藤次郎(2018).インターネット・カウンセリング
(特集:公認心理師を目指すための職場地図)臨床心理学, 18, 470-471.
- 5) 伊藤次郎.他(2018)「ICTを用いた自殺対策の新たな方向性の検討」自殺総合政策研究 第1巻 第1号
- 6) 伊藤次郎(2018)「Promotion of Suicide Prevention using ICT」Suicide Policy Research.Volume 2, No.1 (Published: April 20, 2018)
- 7) Sueki, H., & Ito, J. (in press). Relationship between expression of gratitude and the success of email counseling for suicide prevention.
Bulletin of the Faculty of Human Studies (Wako University), 12.
- 8) 伊藤次郎.(2019). SNSを活用した自殺予防.自殺予防と危機介入, 39(1), 16-20.

学会等での発表

- 1) 伊藤次郎(2018)自殺願望を有する若者へのネット検索連動型支援策の試み 第77回日本公衆衛生学会総会シンポジウム
SNS時代の若者に対する新たな自殺対策の構築～座間事件の再発防止を視野に入れて～
- 2) 伊藤次郎(2018)自殺予防におけるオンライン相談 日本電話相談学会 第31回大会シンポジウム
電話相談とオンライン相談 - 援助的コミュニケーションへの要支援者の期待と支援効果 -
- 3) 伊藤次郎(2018)教育講演2「SNSを活かした自殺予防」第42回日本自殺予防学会
- 4) 伊藤次郎(2019)ICTを用いた自殺対策の新たな方向性の検討 自殺対策推進レアル(主催:自殺総合対策推進センター)

